

憲法いの現在ま

OBA MJ 連載

《 憲法問題特別委員会だより 》

第70回 憲法市民講座報告 市民目線で考える戦争と平和 ～安保法制と変貌する世界の中で～

憲法問題特別委員会 委員長 西 晃

去る3月4日、元内閣官房副長官補(安全保障・危機管理担当)で、現在国際地政学研究所理事長の柳澤協二氏にお越しいただきました。世界の安全保障環境が大きく変化しつつある状況の中、私たち市民一人一人が、自分の頭で日本と世界の平和のあり方を考えるヒントを得たい。そういう思いから企画・開催した市民講座でした(参加者約80名)。

1. トランプ大統領で世界はどうなる？ そして日本は？

まず冒頭柳澤氏は、アメリカ第一主義のもとで「軍需と環境破壊による『実需・雇用創出』を図ろうとしているように見えるトランプ政権の方向性と、それに対する中露(対立)・欧州(批判的視点)・そして日本(すり寄り)の対応の違いを分かりやすく解説されました。

そのような中で、軍事力による抑止力を頼りに、日米安保をさらに強化し、アメリカに守ってもらうためにコスト負担強化(米艦船防護・後方支援・兵器購入 etc)をこれからも続けることについて、一般市民の常識的感覚から、「合理性があるのか」「本当にこの道しかないのか?」、そして「危機にさらされる自衛隊員のリスク」などを冷静に考えませんか?との問題提起をされました。

2. 同盟強化で安全が図れるのか?

同盟強化で(北朝鮮の)ミサイルを防げるのか?尖閣を守れるのか?この路線の支持者は、抑止力を背景にした圧力があってこそ、外交交渉が実のあるものとなると考えています。北朝鮮の核実験・ミサイル発射を思いとどまらせるためには、アメリカが本気で北を攻撃する意思を持っていると思わせなければならないということなのでしょう。

しかしながら、柳澤氏は「抑止が破れない保証はない」と言います。抑止で追い込めば相手にとってそれは挑発です。

もし万一ミサイル攻撃が日本になされたならば…ミサイル防衛システムは作動するのでしょうか、100%ではもちろんありません。そのときどうするのか?2月14日の総理の答弁では、「打ち漏らせば米国が報復する」(=抑止力)と言いますが、(打ち漏らされたミサイル自体は)既に日本に着弾していることになるのです。犠牲になる一般市民の目線で考えなければならないことだと柳澤氏は強調されます。

3. 戦争を防ぐ市民常識を作ろう

「戦争はいやだが中国、ミサイル、テロは怖い」…これが主権者として選択の迷いが生じる原点です。私たちは何を守るのか?「抑止」だけでなく「和解」を模索することも重要。対立する相手と和解するには、「何かを譲歩する覚悟を持たなければならない」と柳澤氏。

憲法9条と自衛隊を持つこの日本に生きる私たちは、アメリカの出てくる戦争にならないために、どうこの国の舵取りをするのか?

今まさにそれが正面から問われている…主権者国民の選択が求められている。そう結んで講演を締めくくられました。

会場からの質問も活発に出され、大変充実した有意義な講演でした。